

内閣感染症危機管理統括庁主催シンポジウム

「“情報”的で備える感染症危機～見えないリスクを捉え、わかりやすく伝えるために～」

次の感染症危機への備えとしてのリスクコミュニケーションの重要性

奈良由美子

(放送大学教養学部/大学院文化科学研究科生活健康科学プログラム)

2026/2/9



次の感染症危機への備えとしてのリスクコミュニケーションの重要性

- ふだんできないことはいざというときにもできない
平時（準備期）の重要性。リスクコミュニケーションも同様

リスクコミュニケーション：

個人、機関、集団間での**情報や意見のやりとり**を通じて、リスク情報とその見方の共有を目指す活動。適切なリスク対応（必要な情報に基づく**意思決定・行動変容・信頼構築等**）のため、**多様な関与者の相互作用等**を重視（新型インフルエンザ等対策政府行動計画）

④情報提供・共有・リスクコミュニケーション

- ・ 感染症危機においては、情報の錯綜、偏見・差別等の発生、偽・誤情報の流布のおそれ
- ・ 感染症対策を効果的に行うため、可能な限り双方向のコミュニケーションを行い、リスク情報とその見方の共有等を行い、国民等が適切に判断・行動
- ・ 平時から、感染症に関する普及啓発、リスク管理体制の整備、情報提供・共有の方法の整理等

④情報提供・共有・リスクコミュニケーション

収集・分析 ③サーベイランス
ラス及び情報収集・分析の体制構築や
を通じた、平時からの効率的かつ効果的
イランス、情報収集・分析の実施

裏の判断に際した、感染症、医療の状況
なりリスク評価、国民生活及び国民経済の
虚

⑤防止

体制を拡充しつつ、治療を要する患者
範囲内に収めるため、感染拡大のス
ピードを抑制
迫時にはまん延防止等重複措置、緊急
を含む必要な措置を適時適切に実施
、治療薬等の状況変化に応じて対策の
止を機動的に実施

⑥治療

治療薬の研究開発を平

④情報提供・共有・リスクコミュニケーション

- ・ 感染症危機においては、情報の錯綜、偏見・差別等の発生、偽・誤情報の流布のおそれ
- ・ 感染症対策を効果的に行うため、可能な限り双方向のコミュニケーションを行い、リスク情報とその見方の共有等を行い、国民等が適切に判断・行動
- ・ 平時から、感染症等に関する普及啓発、リスク管理体制の整備、情報提供・共有の方法の整理等

⑦ワクチン

- ・ 「ワクチン開発・生産体制強化戦略」に基づき、重点感染症を対象としたワクチンの研究開発を平時から推進し、研究開発の基盤を強化
- ・ 有事に国内外で開発されたワクチンを確保し迅速に接種を進めるための体制整備を行う
- ・ 予防接種事務のデジタル化やリスクコミュニケーションを推進

⑩検査

・ 必要な者に適時の検査を実施することで、患者の早

出所：「新型インフルエンザ等政府行動計画」
内閣感染症危機管理統括庁サイト

- ・ ガイドラインの策定
- ・ 「感染症危機に備えたリスクコミュニケーションマニュアル」の作成（R6年度 統括庁による委託調査）

リスクコミュニケーションとは

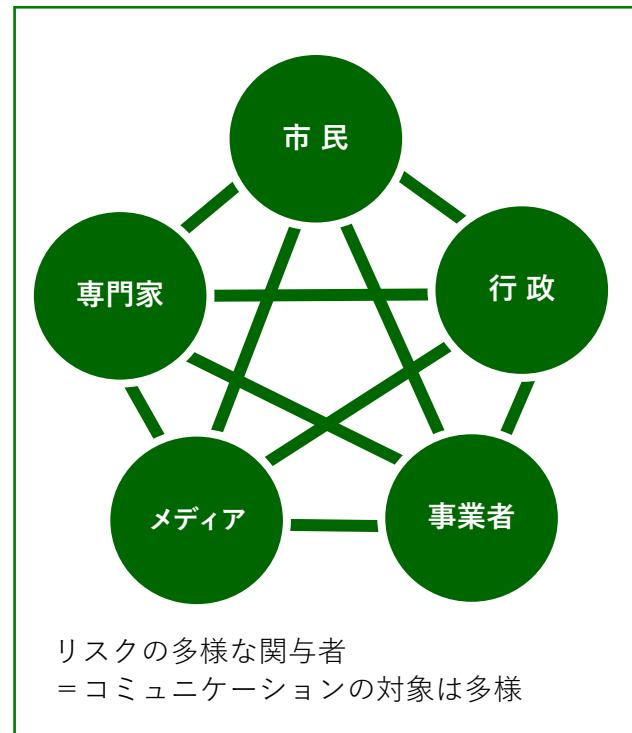
誤解	正しくは
「リスクコミュニケーションとは相手を説得するための情報戦術」	リスクコミュニケーションは、個人、機関、集団間での情報や意見のやりとりを通じて、リスク情報とその見方の共有を目指す活動。
「リスクコミュニケーションとはコピーライティング」	信頼の構築。リスクコミュニケーションは適切なリスク対応のために行われ、単独ではなく、リスク評価やリスク管理も含めたリスクガバナンスの枠の中で捉える。
「リスクコミュニケーションとは情報発信を行うこと」	リスクコミュニケーションの機能は情報発信だけにとどまらない。広報、広聴、対話。インテリジェンス機能が必須（調査・分析）。
「リスクコミュニケーションとは“話せば分かる”の精神で行う営み、職人芸」	リスクコミュニケーションは学術的にも蓄積ある知識体系。理論／知識と実践／スキルの調和が重要。PDCA。
「リスクコミュニケーションのやり方はその都度変わる」	リスクコミュニケーションでは、原則（科学的、迅速性、透明性、一貫性、信頼、共感、相手はリスク対策のパートナー等）を共有、ぶれない。そのうえでの弾力的対応。
「リスクコミュニケーションとは有事のための営み」	リスクコミュニケーション（広義）は有事のクライシス・コミュニケーションを含む、平時からの営み。普段できないことはいざというときもできない。普段が大事。
「リスクコミュニケーションとは広報の1部門」	リスクコミュニケーションは、トップに直結あるいは近いところに位置しつつ、関連する部局に横断的に関わる。

リスクコミュニケーションとは

誤解	正しくは
「リスクコミュニケーションとは相手を説得するための情報戦術」	リスクコミュニケーションは、個人、機関、集団間での情報や意見のやりとりを通じて、リスク情報とその見方の共有を目指す活動。
「リスクコミュニケーションとはコピーライティング」	信頼の構築。リスクコミュニケーションは適切なリスク対応のために行われ、単独ではなく、リスク評価やリスク管理も含めたリスクガバナンスの枠の中で捉える。
「リスクコミュニケーションとは情報発信を行うこと」	リスクコミュニケーションの機能は情報発信だけにとどまらない。広報、広聴、対話。インテリジェンス機能が必須（調査・分析）。
「リスクコミュニケーションとは“話せば分かる”の精神で行う営み、職人芸」	リスクコミュニケーションは学術的にも蓄積ある知識体系。理論／知識と実践／スキルの調和が重要。PDCA。
「リスクコミュニケーションのやり方はその都度変わる」	リスクコミュニケーションでは、原則（科学的、迅速性、透明性、一貫性、信頼、共感、相手はリスク対策のパートナー等）を共有、ぶれない。そのうえでの弾力的対応。
「リスクコミュニケーションとは有事のための営み」	リスクコミュニケーション（広義）は有事のクライシス・コミュニケーションを含む、平時からの営み。普段できないことはいざというときもできない。普段が大事。
「リスクコミュニケーションとは広報の1部門」	リスクコミュニケーションは、トップに直結あるいは近いところに位置しつつ、関連する部局に横断的に関わる。

リスクコミュニケーションの機能

リスコミの機能は情報発信だけにとどまらない。調査・分析も必要



- 市民に対して、分かりやすい言葉で科学的・客観的なリスク情報を示すことは重要。それだけでは足りない。
- 「**広報**」に加えて、「**広聴**」「**対話**」。
伝えるコミュニケーションと**聴く**コミュニケーション。
- 相手はリスク情報をどう受け取ったか、どんな情報が欲しいのか。
そもそもリスクをどう思っているのか（リスク認知の把握）。
どのような感染症対策をとっているのか・とれるのか。
とれないのはなぜか（行動変容の促進・抑制要因の把握）。
これらを調査・分析する機能が必要。相手の「なぜ」を理解。
- **相手の実態や考えを把握**してはじめて、**現場に即した実効性のあるリスク管理**ができるし、**効果的な広報**もできる。

リスクコミュニケーションとは

誤解	正しくは
「リスクコミュニケーションとは相手を説得するための情報戦術」	リスクコミュニケーションは、個人、機関、集団間での情報や意見のやりとりを通じて、リスク情報とその見方の共有を目指す活動。
「リスクコミュニケーションとはコピーライティング」	信頼の構築。リスクコミュニケーションは適切なリスク対応のために行われ、単独ではなく、リスク評価やリスク管理も含めたリスクガバナンスの枠の中で捉える。
「リスクコミュニケーションとは情報発信を行うこと」	リスクコミュニケーションの機能は情報発信だけにとどまらない。広報、広聴、対話。インテリジェンス機能が必須（調査・分析）。
「リスクコミュニケーションとは“話せば分かる”の精神で行う営み、職人芸」	リスクコミュニケーションは学術的にも蓄積ある知識体系。理論／知識と実践／スキルの調和が重要。PDCA。
「リスクコミュニケーションのやり方はその都度変わる」	リスクコミュニケーションでは、原則（科学的、迅速性、透明性、一貫性、信頼、共感、相手はリスク対策のパートナー等）を共有、ぶれない。そのうえでの弾力的対応。
「リスクコミュニケーションとは有事のための営み」	リスクコミュニケーション（広義）は有事のクライシス・コミュニケーションを含む、平時からの営み。普段できないことはいざというときもできない。普段が大事。
「リスクコミュニケーションとは広報の1部門」	リスクコミュニケーションは、トップに直結あるいは近いところに位置しつつ、関連する部局に横断的に関わる。

リスクコミュニケーションの進め方

リスクコミュニケーションは学術的にも蓄積ある知識体系。理論 / 知識と実践 / スキルの調和が重要。PDCA。

■ まず全体像の把握：リスクコミュニケーションの5W1H

- 「何のために」、「いつ」、「どこで」、「誰に（誰と）」、「何について」
- そのうえで、「どのように」

■ リスクコミュニケーションのプロセス

- ①リスクコミュニケーションの目標を設定する
- ②リスクについての事実・現状を把握する
- ③コミュニケーションの相手の属性等を可能な範囲内で把握する
- ④メッセージを伝える/受け取る/対話する内容と方法を検討する
- ⑤リスクコミュニケーションを実施する
- ⑥リスクコミュニケーションを評価する

■ メッセージに含むべきリスク情報

- リスクそのものについての**客観的な情報**
- リスクアセスメントの**不確実性**
- 責任主体の**リスク管理方法**とその**有効性**
- 個人が取り得る**対策**

感染症リスクコミュニケーションでは**人権への配慮**（差別や偏見、分断をうまない）が必須

■ わかりやすいメッセージを

- 言語のほか、イラストや画像・映像も有効
- カタカナや専門用語の多様はひかえる
- 実感のわきやすい表現
- 「自分はどう行動すればよいか」

メッセージの隅々にまで
リスクコミュニケーションの原則が行き届いていること

■ 検証可能性を担保

- さらに詳しい情報にアクセスできるようにする
- 不確かさや見解の相違があるリスク情報の公開の場合はとくに
- リスク情報の根拠や検討過程、情報の修正・更新の履歴を含めた情報の公開

科学的、客観性、正確性、迅速性、透明性、一貫性、共感、敬意、パートナーシップ

リスクコミュニケーションとは

誤解	正しくは
「リスクコミュニケーションとは相手を説得するための情報戦術」	リスクコミュニケーションは、個人、機関、集団間での情報や意見のやりとりを通じて、リスク情報とその見方の共有を目指す活動。
「リスクコミュニケーションとはコピーライティング」	信頼の構築。リスクコミュニケーションは適切なリスク対応のために行われ、単独ではなく、リスク評価やリスク管理も含めたリスクガバナンスの枠の中で捉える。
「リスクコミュニケーションとは情報発信を行うこと」	リスクコミュニケーションの機能は情報発信だけにとどまらない。広報、広聴、対話。インテリジェンス機能が必須（調査・分析）。
「リスクコミュニケーションとは“話せば分かる”の精神で行う営み、職人芸」	リスクコミュニケーションは学術的にも蓄積ある知識体系。理論／知識と実践／スキルの調和が重要。PDCA。
「リスクコミュニケーションのやり方はその都度変わる」	リスクコミュニケーションでは、原則（科学的、迅速性、透明性、一貫性、信頼、共感、相手はリスク対策のパートナー等）を共有、ぶれない。そのうえでの弾力的対応。
「リスクコミュニケーションとは有事のための営み」	リスクコミュニケーション（広義）は有事のクライシス・コミュニケーションを含む、平時からの営み。普段できないことはいざというときもできない。普段が大事。
「リスクコミュニケーションとは広報の1部門」	リスクコミュニケーションは、トップに直結あるいは近いところに位置しつつ、関連する部局に横断的に関わる。

信頼の重要性

リスクの本質は信頼

- 信頼があるときはリスクが円滑に進みやすい
- リスクを行うことで信頼が醸成されていく

リスク評価機関・リスク管理機関への信頼

- 人々のリスク認知に大きく影響
- リスク対策への支持・不支持や協力傾向を左右する

■ リスク管理者の「専門的能力」

専門知識、専門的技術力、経験、資格など

■ リスク管理者の「動機づけ」

まじめさ、コミットメント、熱心さ、公正さ、中立性、客觀性、一貫性、正直さ、透明性、誠実性、相手への配慮、思いやりなど

■ リスク管理者と自らの「主要価値」の類似性

(提示されたリスク問題の見立て方や、そこで何を重視するか)

を、コミュニケーションの相手が
認識

信頼

- リスクにおける信頼 ①リスク情報に対する信頼
②リスク管理者（情報発信者）に対する信頼
③リスクコミュニケーションそのものに対する信頼

③の信頼は、リスクの相手が以下を「認識」したときに作られる

- 情報のやりとりに適時性がある
- 関係者に意見や質問を表出す機会や場がある
- 意見や質問が意思決定に反映されている
- 意思決定プロセスに利害関係者が参加している
- 意思決定プロセスに透明性がある

双方向性が担保された丁寧なリスク
コミュニケーションが②、そして①
につながる

リスクコミュニケーションとは

誤解	正しくは
「リスクコミュニケーションとは相手を説得するための情報戦術」	リスクコミュニケーションは、個人、機関、集団間での情報や意見のやりとりを通じて、リスク情報とその見方の共有を目指す活動。
「リスクコミュニケーションとはコピーライティング」	信頼の構築。リスクコミュニケーションは適切なリスク対応のために行われ、単独ではなく、リスク評価やリスク管理も含めたリスクガバナンスの枠の中で捉える。
「リスクコミュニケーションとは情報発信を行うこと」	リスクコミュニケーションの機能は情報発信だけにとどまらない。広報、広聴、対話。インテリジェンス機能が必須（調査・分析）。
「リスクコミュニケーションとは“話せば分かる”の精神で行う営み、職人芸」	リスクコミュニケーションは学術的にも蓄積ある知識体系。理論／知識と実践／スキルの調和が重要。PDCA。
「リスクコミュニケーションのやり方はその都度変わる」	リスクコミュニケーションでは、原則（科学的、迅速性、透明性、一貫性、信頼、共感、相手はリスク対策のパートナー等）を共有、ぶれない。そのうえでの弾力的対応。
「リスクコミュニケーションとは有事のための営み」	リスクコミュニケーション（広義）は有事のクライシス・コミュニケーションを含む、平時からの営み。普段できないことはいざというときもできない。普段が大事。
「リスクコミュニケーションとは広報の1部門」	リスクコミュニケーションは、トップに直結あるいは近いところに位置しつつ、関連する部局に横断的に関わる。

リスク管理体制の整備と人材育成

広報・広聴・対話のできる人材と体制を普段から有しておく

- COVID-19初動時にリスク管理体制が比較的うまくいった国々はリスク管理体制強化をとっていた

- ✓ **台湾**…SARSの経験。国家衛生指揮センターを設置、2005年伝染病防治法の見直し。リスク管理体制強化。

情報発信も、広聴・対話も

- 徹底したワンボイス（「ここさえ見れば大丈夫」）
- 多様なメディアと情報形態を駆使、多様な層の情報ニーズに応える
- 一方向にならない（丁寧に質問に答えることでメディアや国民との関係性を構築）
- 国民の疑問や関心を把握（チャットボット、アンケート、マス＆ソーシャルメディア等）し、情報発信と施策に接続

- ✓ **韓国**…MERSの経験。2015年感染症制御・防疫法を改正。2016年、韓国疾病制御・防疫センターにリスクコミュニケーション室を設置。ガイドライン作成。リスク管理とコミュニケーション活動を統合的に指揮・監督、内部関連部署がワンボイスでコミュニケーション業務ができるよう調整。
- ✓ **シンガポール**…SARSの経験。コミュニケーション戦略計画を策定。分野・部局横断的アプローチを実施。国民の理解を促す情報発信。2009年新型インフルエンザ発生時には戦略をさらに進化。

- 組織へのリスク管理体制の恒常的位置付け
- リスク管理体制の策定、マニュアル作成、リスク研修、広報官の設置等
- 外部からの科学的・専門的助言や人材支援を受けられるネットワークを保有しておく
- 普段から小さいリスクを実践し、リスクをやり慣れておく

平時は“**情報**”の力 を支える人材と体制、そして**信頼**を構築する好機